

和田精工株式会社
DX戦略

2025年4月17日 取締役会承認
和田精工株式会社
代表取締役社長 和田 一宏

DX取組宣言

和田精工株式会社は、1934年、大阪・堺で創業しました。

1940年来の自転車部品より玉軸受の製造に転換、1958年にはJIS表示の許可をうけ、高い品質のモノづくりを展開してまいりました。現在では、大阪の堺・貝塚、和歌山に拠点を置き、ベアリング製造の豊富な経験とプラスチック射出成形品製造技術を駆使し、お客様の要求にポジティブに対応するために、自動化、無人化のためのロボット技術も積極的に取り入れた生産体制を構築しております。

昨今の当社を取り巻く環境は、景気停滞と新興国による価格攻勢やメーカーの現地調達の推進により厳しい状況にあります。また、資源価格の上昇や光熱費の高騰により仕入原価も増加しています。一方、社内では技術職社員の高齢化が進み、若年層の教育と定着化が必要となっています。

こうした状況においては、これまでの延長線上の改善だけではなく、新しい発想や取組、デジタル技術やデータを駆使した変革が必須だと考えております。激しい外部環境変化の中、今後の経営基盤を盤石なものにするために、このDX戦略書を作成しました。

和田精工にはお客様の「想い」を実現するシステムがあります。

それは、お客様のニーズに応える提案力と品質力です。和田精工が提供するの単なる部品ではなく、お客様に満足と安心をお届けするテクニカパーツなのです。

当社は製品の取り扱いにとどまらず、蓄積したノウハウを生かし、DXに取り組むことにより、企画、設計、金型製作、製品製造、メンテナンスとトータルなサービスを提供し、顧客や社会のニーズにマッチした一歩先行く特注製品(オンリーワン製品)を創出し、製販一体のビジネスモデルに変革してまいります。

経営理念

“想いを形に” 技術を形にする会社として、お客様第一と自社変革を推進する

お客様が何をしたいかという想いに耳を傾け、対話を繰り返しながら、真の課題を発掘し、和田精工にしか出来ない最良の答えを見つけていくことが、私たちのスタンスです。お客様にとっての最良の答えを私たちが実現することが、自社の変革と成長の原動力となります。『納期で生まれ、品質で育ち、効率化を実践』し、長期にわたりお客様の発展に貢献します。

経営ビジョン

サプライヤーから、新しい需要を創出する「**課題解決型デジタルファクトリー**」へ

私たちは、失敗を恐れず常に新しいことにチャレンジし続けます。その過程において得られた様々な知見、デジタル技術、データ活用のノウハウを社内に取り込み、それらを統合してお客様の課題を解決できる「**課題解決型デジタルファクトリー**」として、これまでにない新しい需要や製品を創出するメーカーへと発展します。そして、従業員や協力工場が豊かな生活設計を考えられる事業創りにまい進します。

和田精工は、新しい需要や働き方を創出する「**課題解決型デジタルファクトリー**」として、製販一体のビジネスモデルに転換するために、以下のようなDX戦略を実施します。

戦略①お客様の課題解決DX

・新しい需要に対応する自社新製品開発

(お客様との対話を繰り返しながら真の課題を発掘し、想いを形にする提案営業を実践し、和田精工がこれまでやったことのない新市場を開拓して売上を拡大します)

戦略②社内の課題解決DX

・働き方改革

(資源の有効活用・配置の最適化、休暇制度の充実を行い、有給休暇取得率の向上を目指します)

・無人工場の実現

(安全対策、技術開発、設備メーカーとの連携を進め、無人化の推進による生産効率(生産額/作業時間)を向上します。)

戦略③お客様、協力工場、自社工場を含めたサプライチェーンDX

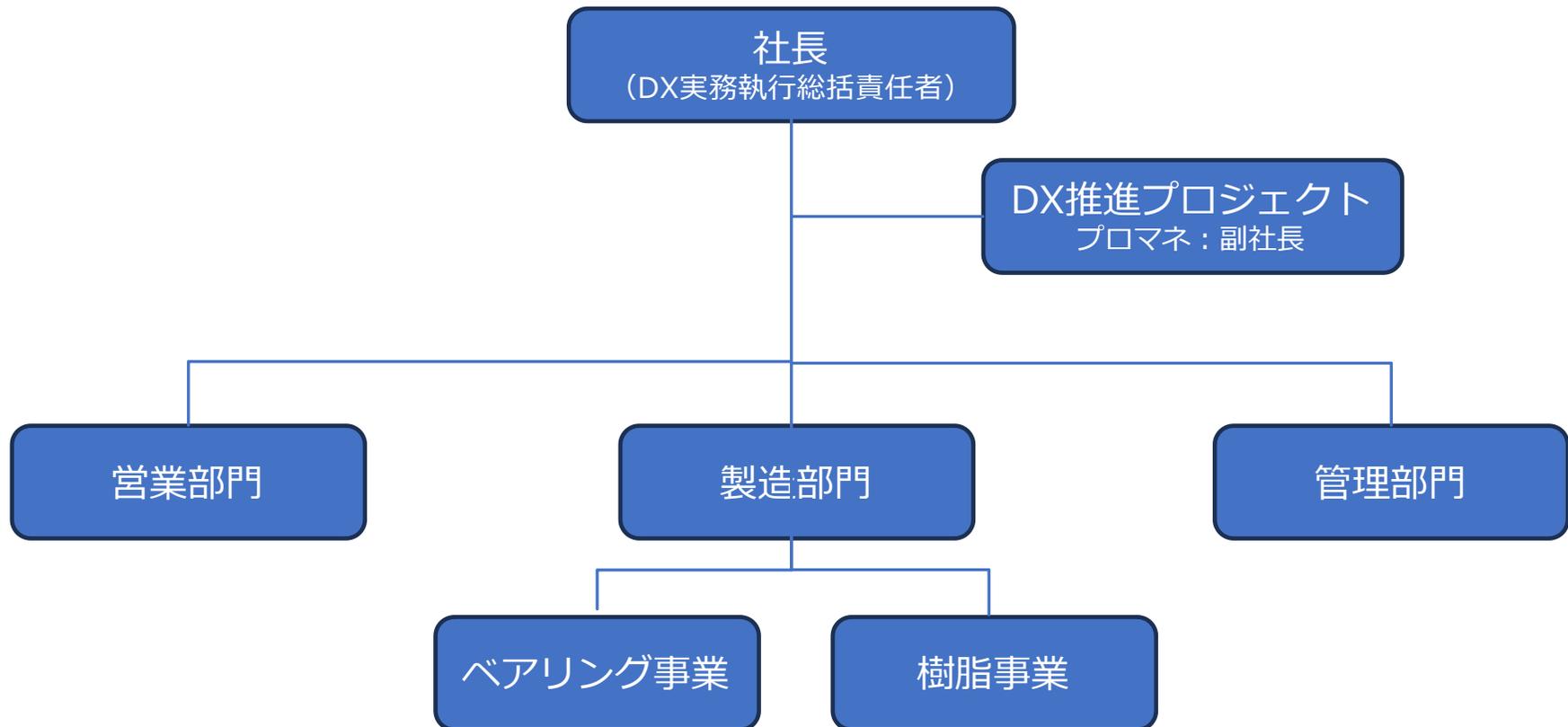
- ・物流・輸送コストの最適化 (情報共有の仕組みづくり)
- ・協力会社間における生産状況の可視化 (スマホアプリの導入による情報共有)

戦略④人材育成DX

- ・従業員の多能工化、ノウハウの可視化と情報共有 (工場の無人化を推進するために多能工化の育成を実施)
- ・DXリテラシー教育、DX推進人材教育 (社内におけるデジタルスキルを向上するための人材教育の実施)

DX推進体制

和田精工株式会社は、社長（実務執行総括責任者）を中心として、DX推進プロジェクトを組織し、定期的にDX戦略の進捗を管理しながらDXを推進してまいります。
また、必要なデジタル人材の育成も品質マネジメントシステムに組み込み教育計画を立案し、DX推進プロジェクトを中心に確実に実施します。



和田精工株式会社は、DX推進のために毎年売上の0.5%を投資します。これまで利用している既存システムを見直しながら活用を促進していきます。また、新規システムの導入やネットワークを構築して、会社全体のDXを推進していきます。

区分	内容
既存システム	<ul style="list-style-type: none">・生産管理システム（見直し）・自動装置システム・AI検査装置・3DCAD
新規システム	<ul style="list-style-type: none">・新規受発注システム・3DCAD・物流・輸送コストの最適化のための情報共有の仕組み構築・協力工場との連携を管理できるスマホアプリ

KPI（目標値）

DX戦略の達成状況を測る指標として下記を定めます。実行計画を立案したうえで、取り組みを行い、各部署ごとに目標値の達成状況を月1度評価を行いながら目標達成できるようPDCAサイクルを回していきます。

戦略	取組内容	期限	目標値	担当部門
戦略① お客様の課題解決DX	新しい需要に対応する自社新製品開発	2028年末	新市場売上の売上比率20%	営業部門
戦略② 社内の課題解決DX	1)働き方改革	2028年末	有給休暇取得率 (2024年比) 10%UP	製造部門
	2)生産性の向上	2028年末	無人化の推進による生産効率を現状の30%UP (生産額/作業時間)	
戦略③ サプライチェーンDX	1)物流・輸送コストの最適化	2026年末	情報共有の仕組構築	生産管理部門
	2)協力会社間における生産状況の可視化	2028年末	協力会社の納期回答の可視化のシステム導入 (2026年社内テスト、2027年に一部協力工場に導入)	
戦略④ 人材育成DX	1)従業員の多能工化、ノウハウの可視化と情報共有	2028年末	従業員の多能工化 90%	製造部門
	2) DXリテラシー教育、DX推進人材教育	2028年末	デジタル人材 5人養成	DX推進プロジェクト

社長（実務執行総括責任者）メッセージ

“想いを形に” 技術を形にする会社

WTW 和田精工株式会社

はじめまして、和田精工の和田一宏です。

弊社の創業は1934年、今から90年前のことです。当時は自転車の部品を作っていたそうです。創業者の祖父は、とにかく新しいものが大好きで「他より早く、新しい機械を入れ」て、「他にはないものを納める」を信条にし、いちはやく J I S 表示許可工場となり品質向上に努めました。

私の父は1968年に事業を引き継ぎました。今までやってきたことのない仕事に挑戦し、1973年にベアリングと樹脂の複合製品の開発に成功して販売開始。しかし、複合製品も大手メーカーの参入により撤退、樹脂成形単独での仕事を模索して、1981年には樹脂事業の工場を開設しました。

そして、私は2023年に社長に就任し3代目となりました。新型コロナ禍では、厳しい環境の中を乗り切り、次の時代のモノづくり企業のあるべき姿を実現するために、和歌山にクリーンルームを備えた新工場を建設しました。また、同時に新規事業プロジェクトを立ち上げ、自動化、ロボット化に積極的に取り組み、検査工程の無人化等一定程度の成果が上がるようになってきました。これで堺・貝塚・和歌山工場ができ、ベアリングと樹脂加工のノウハウを生かした、目指すべき「課題解決型デジタルファクトリー」になるための基盤が整ったと思っています。

しかし、近年の世界状況、日本の状況変化は非常に早く劇的で、現場の人手不足は深刻です。

これらの課題や変化に素早く対応するためには、これまでの仕事の延長線上ではなく、デジタル技術やデータを駆使した攻めの変革（現状打破）=DXが必須だと考えております。

今まで、個別に発信してきた経営ビジョン、ビジネスモデルやDXの考え方を、このDX戦略書にまとめ、お客様に、従業員に、行政機関に、地域の皆様に発信することで、和田精工がこれからやりたいこと、やるべきことに共感・共鳴頂きたいと考えております。

弊社のDXの目的は、「課題解決型デジタルファクトリー」として、自動化を進めみんなが明るく永く働ける世界、新しい需要を創りサプライチェーン全体の最適化ができ、地域が繁栄していく共存共栄の世界を創ることです。和田精工のDXにご期待ください。